

RosettaNet 保守情報交換システム

RosettaNet活用事例として、世界で初めて保守サービス分野で適用

保守サービスの業務プロセスにRosettaNet準拠のサプライチェーン・システムを構築。業務処理コストの低減を実現

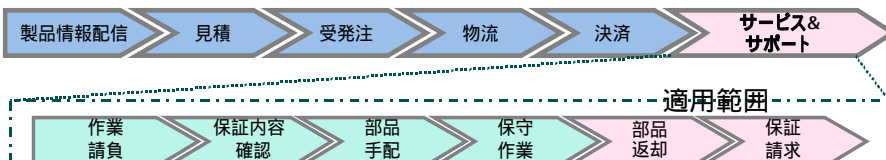
システム導入の背景

- 従来、サービスプロバイダでは、PC及びIAサーバを中心とするハードウェア保守サービスの実施案件毎に、その内容やパーツ交換などの状況を記したサービスレポートを郵送またはWeb経由でメーカーへ報告してきたが、業務の効率化/自動化/即時性を目的として、RosettaNet規格準拠のサプライチェーンシステムを構築。

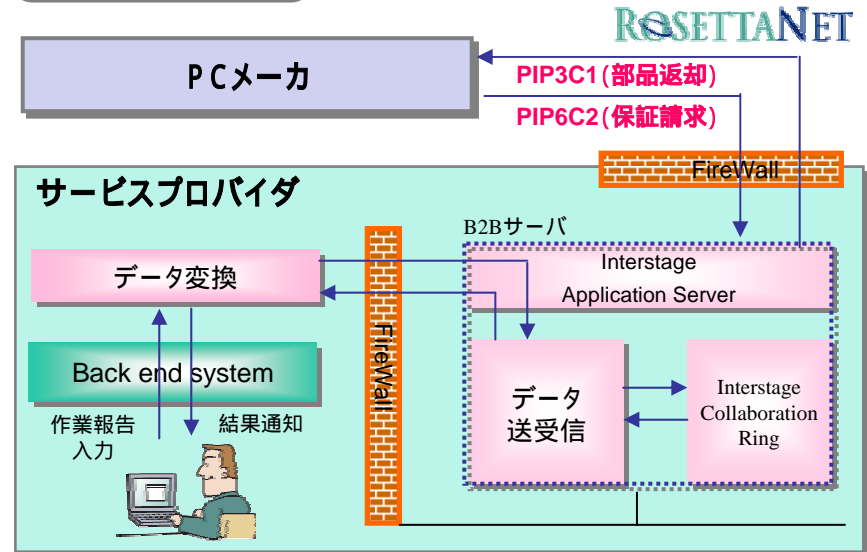
システムの特徴 / ポイント

- RosettaNetでのシステム連携の必要性
従来は1案件毎にWebへデータ登録が必要だったのに対し、RosettaNetにより社内システムから自動報告が可能となり、特に保守作業件数の多い保守サービスプロバイダでは、大幅な業務改善が見込める。
- サービス向上
処理手順やサービス報告内容の標準化により、サービス状況が容易かつタイムリーに把握でき、お客様に対してより高品質な保守サービス提供が可能となる。また、その情報を元にユーザーニーズに対応した製品開発や品質向上に迅速につなげることが可能となる。

適用業務プロセス



システムイメージ



導入効果

- FAX送受信やWebシステムへの手入力処理の排除による業務の大幅な効率化・自動化
- サービス報告内容の標準化によるパートナー間での容易かつタイムリーな状況把握の実現
(業務プロセスのバッチ処理からリアルタイム分析への改善)
- 社内システムの業務処理改善
- 相互連携によるパートナーシップの強化(取引量の維持・拡大へ寄与)